

オール阿見で取り組む

人口は増えてもごみは減らす ゼロカーボン事業

市制

人口5万人の
基盤づくり

共生

地域力を高める
取り組み

霞ヶ浦

“泳げる霞ヶ浦”
を発信

茨城県 阿見町

全体計画の概要

人口の維持と地域の力

阿見町では「持続可能なまちづくり」を目指す前提として、まずは「人口を維持すること」、そして多様化する地域の課題に対して、行政が全て解決しようとするのではなく、町民自らがまちづくりの担い手となり、自分たちの地域のことは自分たちで解決するまちを目指している。



「子育て」「暮らし」「誇り・愛着」の3本柱

阿見町第7次総合計画前期基本計画において、次の3つの視点を「リーディングプロジェクト」として整理している。

- ▶ **子育て** 若者・子育て世代に選ばれる5万人都市プロジェクト
- ▶ **暮らし** 暮らしらし続けることのできる持続可能な都市プロジェクト
- ▶ **誇り・愛着** 人とまちへの誇り・愛着が育つ共生都市プロジェクト

2030年のあるべき姿

経済

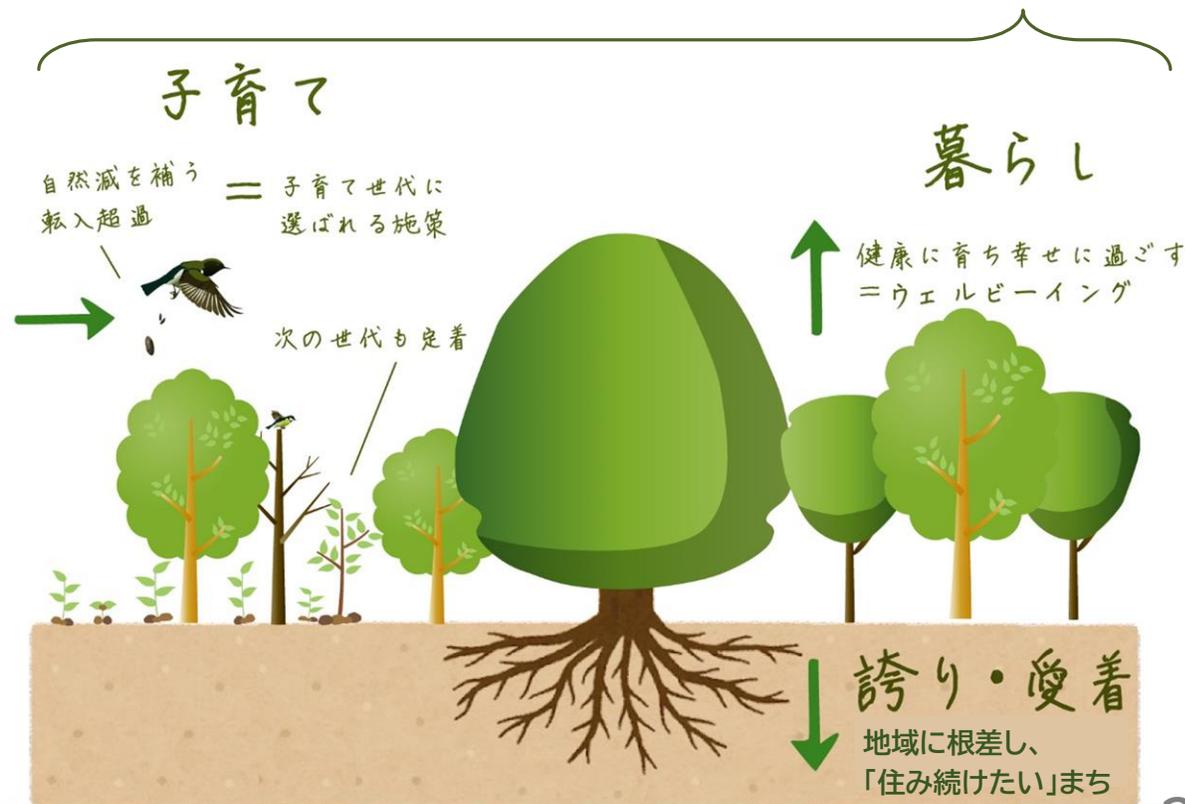
- ✓ 人口5万人を維持
- ✓ 職住近接のまちが地理的なポテンシャルを活かして実現
- ✓ 霞ヶ浦を活かし、賑わいを創出

社会

- ✓ 町民が町に誇りと愛着を持ち「住み続けたい」まちになっている
- ✓ 地域の力が高まり、地域ぐるみの支えあいを実現している

環境

- ✓ ゼロカーボンシティの実現に向けた取り組みが行き渡っている
- ✓ ごみ削減の意識が浸透している



オール阿見で取り組む、 人口は増えてもごみは減らすゼロカーボン事業

経済



圏央道の好立地や霞ヶ浦の観光活用は伸びしろ充分
→ポテンシャルを活かす！

- ✓ 霞ヶ浦を活かした「つくば霞ヶ浦りんりんロード」の整備で活性化！
- ✓ 職住近接のコンパクトシティの推進！
「牛久阿見インターチェンジ」を活かして経済を向上！
「荒川本郷地区」を活かして転入超過を維持！

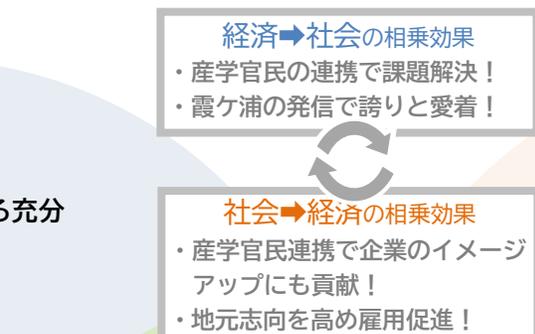
経済→環境の相乗効果

- ・企業、ボランティア団体、大学と連携した課題解決！
- ・町全体を挙げたCO2削減の取り組みで市街地開発による環境負荷を緩和！

環境→経済の相乗効果

- ・給食残渣から生成された堆肥を活用！
- ・泳げる霞ヶ浦の発信で関係人口を増加！

環境



社会



地域の課題を地域で解決する住民自治
→地域力を高める！

- ✓ 「地域づくり会議」で地域の課題解決能力を向上！
- ✓ 「町民協議会」で人材の発掘！
- ✓ 「高校生会」で若年層の地域への関わりを創出！
- ✓ 「あみ未来塾」で将来を担う人材の育成！
- ✓ 「子ども食堂」で地域ぐるみの支えあい！

社会→環境の相乗効果

- ・給食残渣の再資源化で町民のごみの減量化を先導！
- ・地域力を高め、町民全体でごみを減量化！

環境→社会の相乗効果

- ・活動を通して地域が一体化！
- ・地域に愛着を持ち、あらゆる活動を活性化！

オール阿見で取り組む!! 統合的取組

人口は増えてもごみは減らすゼロカーボン事業

阿見町版
「産学官民連携プラットフォーム」の構築

民間 企業・団体・大学
町民 重点的に
町 「紙は資源ごみ」を徹底
「給食残渣を再資源化」
「啓発と“泳げる霞ヶ浦”の発信」

VR
MVあみビーチVR

「1人あたりのごみの量県内ワースト4位」
→ごみの減量化によるCO2削減！

- ✓ 全町民で取り組む「ごみの減量化」と「食品ロス対策」
- ✓ 町全体を挙げた「エコライフ」「エコドライブ」でCO2を削減！



統合的取組の コンセプト

“オール阿見で取り組む”

町民に身近な
「ごみの削減」
を題材にゼロカーボンシ
ティ実現の第一歩を町が
けん引。



トレードオフを緩和し、
相乗効果を挙げる

- ✓ 企業や大学との連携を促進
- ✓ 町民の取組を促進
- ✓ 町が先導・けん引、啓発
 - ・給食残渣の再資源化
 - ・泳げる霞ヶ浦の発信

1 三側面の取組



3 環境 町民が主役 で実践

- 1 全町民で取り組む「ごみの減量化」と「食品ロス対策」
- 2 町全体を挙げた「エコライフ」「エコドライブ」の推進



2 社会 町民の自発的 な活動を促す

- 1 地域づくり会議
- 2 町民討議会
- 3 高校生会
- 4 あみ未来塾
- 5 子ども食堂



1 経済 ハード面の 基盤を作る

- 1 つくば霞ヶ浦りんりんロードの整備
- 2 職住近接のコンパクトシティの推進





2 産学官民連携プラットフォームの構築

産 阿見町には**3つの工業団地に53社の企業**が立地、町内の製造出荷額等は3,599億7,200万円(2020年経済センサス活動調査)、全国でも1720市町村中210位。

学 阿見町には、茨城大学農学部、茨城県立医療大学、東京医科大学茨城医療センターの**3つの大学**が立地、町と地域連携協定を結び、それぞれの専門性やノウハウを活用した連携事業を実施。

民 阿見町では行政区(自治会)を中心とした地域の活動が活発。子ども食堂も7か所で誕生。**NPO法人数は20団体**、人口1万人あたり4.0で県内44市町村中5位(令和5年5月末)。

↓ **ポテンシャルを活かす!**

「阿見町版産学官民連携プラットフォーム」を構築

町ホームページにフォームを設置、工業団地企業・阿見町商工会・3大学・町民活動団体等へ周知し活用を促す。

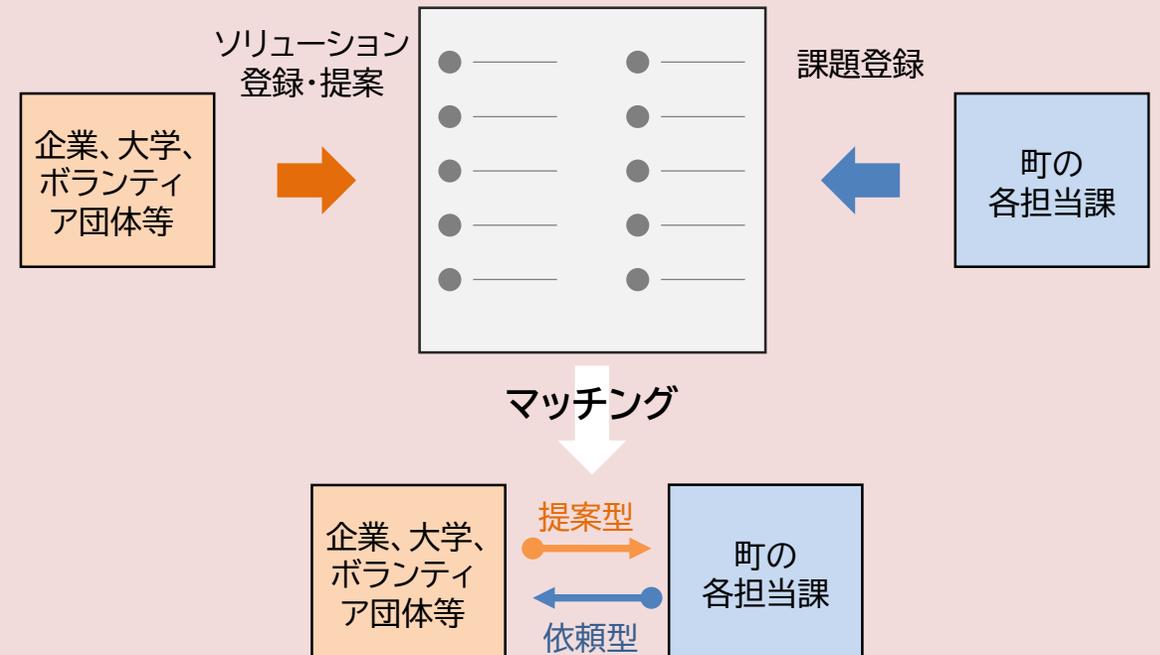
産学民はソリューションを登録



官(町)は課題を登録

マッチング後、課題解決に向けて協議・検討

プラットフォームの概要



提案型：町の課題に対して企業や団体が解決策を提案

依頼型：町の担当課から企業や団体を指名し解決策を依頼



3

給食残渣の再資源化



現状

学校給食センターでは、年間87.5t※のごみが発生、霞クリーンセンターに持ち込まれ、**すべて焼却処理**。 ※ 2022年度
(中学校3校、小学校7校、保育所3所の給食をセンター方式で調理)

方策

残渣の再資源化装置を設置し、残飯や野菜くずを再資源化、霞クリーンセンターに持ち込まれる可燃ごみを削減。

展開

野菜を納入している生産者に堆肥を提供
有機農業を促進し、そこで育った野菜を給食に活用＝環境に配慮した循環型システムを形成。

堆肥を町民に還元
家庭菜園での利用という形で身近なSDGsの取り組みを促進する。

堆肥を学校や保育所に配布
環境教育や食育に展開する。



さらには、道路や公園管理で発生する**刈草**、霞ヶ浦に漂着して悪臭の原因となっている**淡水魚ハクレンの死体**の処理も視野に。
➔ 廃有機物の資源としての地域還元、霞ヶ浦の環境改善につなげる

4

メタバース版 “泳げる霞ヶ浦”MyあみビーチVRの構築

現状

霞ヶ浦では1960年代まで湖岸で泳ぐことができたが、1970年代から堤防の整備と沿岸の人口増加により水質汚濁が進み湖水浴場の閉鎖が相次いだ。しかし、現在、那珂川～霞ヶ浦～利根川を地下で結ぶ「霞ヶ浦導水事業」が2030年の完成を目標に進められており、「泳げる霞ヶ浦の復活」に期待が高まってきている。

方策

メタバースに阿見町公式の空間を構築し、スマホやVRゴーグルを使って「2030泳げる霞ヶ浦」を体験できる場所を実現する。

展開

未来の泳げる霞ヶ浦のビーチを構築するとともに、過去へのタイムスリップ体験、臨場感のあるミニゲームや3D映像(例：ゼロ戦の飛行体験、スカイダイビング、ウォータースライダーなど)を実装。**イベント会場**を作り、町のイベントの第2会場として現実での参加が難しい町民の方(障害のある方、健康上の不安のある方など)でも参加しやすい会場として利用、誰一人取り残さない事業展開に活用。



先進技術であるメタバースを活用して「2030泳げる霞ヶ浦」を阿見町から発信することで、霞ヶ浦流域の全てのステークホルダーに対して1960年代まで泳ぐことのできた**かつての霞ヶ浦の姿を取り戻すための行動**を呼びかける。

※「メタバース」：インターネット上で不特定多数の人が参加できる3D空間

5

紙の資源ごみ化の徹底と啓発活動



現状

- 阿見町は1日1人当たりのごみ排出量が県内でワースト4位(2021年度)
- 阿見町は単独でごみ焼却施設(霞クリーンセンター)を設置、可燃ごみのうち、紙・布類の割合が約44.4%(過去3年間の平均)

方策

紙の資源化を全町民挙げて徹底。そのために、紙を「資源ごみ」として回収するための紙袋を全世帯に配布。

展開

次の取り組みとの相乗効果により全町民でごみを減量

- 生ごみ処理容器等購入費補助金
- 子ども会リサイクル環境教育事業助成金
- 食材の使い切り、食べきり運動

「人口は増えてもごみは減らす」を合言葉にごみの減量化を推進!

1日1人当たりのごみ排出量

| | | |
|----|------|--------|
| 1位 | 大洗町 | 1,390g |
| 2位 | 五霞町 | 1,155g |
| 3位 | 結城市 | 1,109g |
| 4位 | 阿見町 | 1,092g |
| 5位 | つくば市 | 1,068g |

市町村別ごみ排出状況(2021年度実績)

霞クリーンセンターに持ち込まれた可燃ごみ割合

紙・布類 約44.4%
(過去3年間の平均)



資源ゴミで出してもらうため専用の紙袋を2024年度配布





6

統合的取組による相乗効果

経済

- ✓ 霞ヶ浦を活かした「つくば霞ヶ浦りんりんロード」の整備で活性化！
- ✓ 職住近接のコンパクトシティの推進！「牛久阿見インターチェンジ」を活かして経済を向上！「荒川本郷地区」を活かして転入超過を維持！

社会

- ✓ 「地域づくり会議」で地域の課題解決能力を向上！
- ✓ 「町民討議会」で人材の発掘！
- ✓ 「高校生会」で若年層の地域への関わりを創出！
- ✓ 「あみ未来塾」で将来を担う人材の育成！
- ✓ 「子ども食堂」で地域ぐるみの支えあい！

「メタバース版”泳げる霞ヶ浦”」の発信により、霞ヶ浦流域の全てのステークホルダーに対して1960年代まで泳ぐことのできた**かつての霞ヶ浦の姿を取り戻す**ための行動を呼びかける。

「産学官民連携プラットフォーム」により、町は企業の活動をとおして**行政課題の解決**につなげ、企業は**イメージアップ**と町からの受託による**経済的メリット**を享受する。

「産学官民連携プラットフォーム」の構築をはじめ町全体を挙げた取り組みを進めることで、企業誘致や荒川本郷地区の開発による**環境負荷への影響（トレードオフ）**に対応する。

「給食残渣の再資源化」により町事業の可燃ごみを再資源化することにより、CO2削減に寄与するとともに、町が率先して行うことで**町民のごみ減量化の取り組みを先導**する。

「給食残渣の活用」によって生成された堆肥を生産者や町民に還元することで、**経済的なメリットと資源の循環**を両立させる。
「メタバース版”泳げる霞ヶ浦”」により町の**関係人口の増加**につなげる。

環境

- ✓ 全町民で取り組む「ごみの減量化」と「食品ロス対策」
- ✓ 町全体を挙げた「エコライフ」「エコドライブ」でCO2を削減！

地域力を高める5つの取り組みと「**紙の資源ごみ化の徹底**」との相乗効果で意識を高め、ごみの資源化率を向上し、可燃ごみの約4割を占める紙・布類を削減し、町民一日当たり**ごみ排出量を削減**する。

自律的好循環の具体化

“主役は町民”

町は、町民や企業を先導・促進

① 予算に頼らない啓発活動

給食残渣の再資源化、メタバース版”泳げる霞ヶ浦”の2つの補助金活用事業は、ともに初期費用は必要とするものの、運営段階において高額な費用や専属の人員を必要とするものではない。

② 産学官民連携プラットフォーム

各課の課題解決や民間の強みを活かした官民連携の取り組みを自立的に発生させ、あらゆる課題解決を自走させる。

啓発活動の継続



公式ロゴマークの活用



バナースタンド



カードゲーム



さわやかフェア



YouTube

他地域への普及展開

住宅都市型SDGsの提唱

- 阿見町が進めようとしているSDGsの在り方は行政が予算をかけるトップダウン型ではなく、住民の自発性を育てる**ボトムアップ型**。
- 長期的な視点で地方創生を進める上で最も重要な**原動力は住民の自発性**。
- 全国の都市近郊の小規模自治体や、ベッドタウンの自治体において、**パートナーシップ**を**ベースとした地方創生**の一つのモデルとして参考としていただきたい。